

加茂女の挑戦

1989年～2024年

環境保全から町おこしまで！

イベントを開催



世代間を超えた様々な分野の人々がつながることで
解決できることは沢山あると考えます。
都市と地方の交流もその一つです。

婚活イベント「竹林に恋」



↑婚活イベントに集まった参加者たち



←↑↓手作りピザをみんなで作る



木津川を竹筏で遊ぼう



↑水辺の生物についてのお話

流しそうめんイベント



バウムクーヘンづくり

↓おいしそうなバウムクーヘンが完成！



生物を探そうイベント



↑子供たちが主役のイベント

竹林で椎茸づくり

竹林でピザ焼き



↑竹林内の環境は椎茸栽培に適している



木津川市にはたくさんの竹林が存在します。
 美しい竹林風景を守るためには、市内の貴重な資源である竹に触れ合う機会を作る必要があると考え、子供の頃から親しめるように様々な仕組みづくりをしています。

竹林内の遊具

竹林整備に子育て中のお父さん世代の参加者が増えて欲しいと竹林内に遊具を設置しました。

少しでも竹の魅力を実感して欲しいと思って竹を使って作っています。



↑竹林に設置した竹の橋

↓竹を使った遊具「回転ブランコ」



↑竹で作ったブランコ



↑竹で作った遊具「物見台」

物見台は、お昼にピザやおにぎりを食べる場所のそばに作りました。上に登って座って、見下ろしながら食べられる施設です。



↓竹林に作ったハンモック



↓ツリーハウスと、滑り降りることができるターザンロープ



農業マッチングセミナー



↑農業の現場を見学

何よりも食料自給率を上げること、安全な食べ物を自国で作っていくことが重要です。農業従事者を増やし農業を盛んにしていく必要があると加茂女は考えます。

地元の若手農業者と、移住して農家を目指す若者とのマッチングセミナーを開催しています。



↓ビニールハウスを見学





↑地元農業者と営農希望者との学習会



↑参加者が宿泊可能な施設も用意



↑地元農業者が熱心に説明

↓借りる農地を視察



竹林整備活動



↑チェーンソー講習会



以前住宅の周辺は、風光明媚な竹林風景が広がっていました。しかし、筍の値段が外国産に負けた事や竹の需要が減った事で竹林が荒れだしました。そこにゴミの不法投棄が始まり、あげく産業廃棄物処理場が出来るといった問題が起こりました。環境問題に取り組むグループとして署名運動をしたり議会に請願を出したりして反対運動に係わりましたが、結局私たちの住む周辺地に大きな産業廃棄物の埋め立て地が出来てしまいました。



↑車も止められる多目的スペース

荒れた竹林にゴミを不法投棄する事から、大きな環境破壊問題に発展するという苦い経験をしたことで、森や竹林を荒らさない事が重要だと考えるに至りました。

そこで、自分たちで竹林整備を試みようとして話し合い、京都府の地域力再生プロジェクト支援事業交付金に応募してノコやナタやチェーンソーなどを揃え、放置竹林整備を始めました。すると定年退職した男性達も参加して下さるようになりました。

竹チップづくり

↓竹チップパー作動



↑竹チップ



チップパーと炭焼きの開放窯も手に入れました。新しい事業として「竹のチップ」と「竹炭」の活用を進めるためです。

竹のチップは消臭効果や抗菌力が有り、肉鶏の餌に混ぜると鶏肉の匂いの緩和と鶏インフルエンザの予防にもなります。また、災害時のトイレに活用でき、室内用のトイレとして使っても臭いませぬ。此れは何よ

りも使用後の尿尿入りの竹チップが畑に入れて肥料になる事です。このリサイクルを進めて行けば、新たな竹の利活用が可能です。

竹林整備には自走式チップパーが必要です。切った竹を現地でチップにすれば土壌改良が一緒に出来ます。現在は京田辺市に有る農民組合連合会迄、借りに行っています。

↓鶏のえさにチップを混ぜて育てる



竹チップの活用

チップの用途

 鶏の餌

 室内用トイレ

 肥料

 防草舗装材



↑作成した室内用トイレの外観
下は野菜を入れるコンテナにビニール袋を敷いたもの
被災地への貸し出し用トイレを 10 器制作

↓チップを肥料にした畑で野菜を育てる



一般社団法人 SOFIX 農業推進機構様より 「尿尿入りの竹チップは土壌改良剤として優れていて、此れに油粕などを入れると肥料としても充分である」とのコメントを頂き、有効性が証明されました。

今後、肥料としても農家さんと一緒に進めていきたい活用法です。

竹炭づくりの挑戦

竹炭づくり



↑竹を燃やして炭づくり

↓燃やした竹に水をかける



↑竹炭を集める

開放窯で作る簡便な竹炭は「から消し状」の物で柔らかいのです。気孔が多いので畑に入れるとバクテリアが増えやすく野菜作りに効果的です。

竹炭そのものは、土壌改良剤として有効です。これは会員が一年間実証実験して、サツマイモの採れなかった畑から竹炭を入れただけで肥料なしでもホコホコのサツマイモが採れたことです。さらに、甘い大きなトマトも採れたとの報告を頂きました。

また、竹炭も肉鶏の餌に混ぜて使用されています。

竹炭は水質浄化剤等にも活用出来ます。

炭を作る開放窯は京都竹カフェから借りています。



竹炭の活用



↑ 出来た竹炭



↑ 竹炭で土壌改良

竹炭の用途



肥料



鶏のエサ



水質浄化剤



土壌改良剤

↓ 竹炭を入れた畑



↓ 竹炭で竹林内のぬかるみを直す



↓ 竹炭で観賞魚飼育用の水質浄化剤に使用



竹を食べて減らす運動として食品開発

これからの時代、地下資源ではなく循環可能な地上資源を使っただけの生活が大事だと提言します。そういう意味からも成長の早い竹は貴重な資源です。

また竹はとても汎用的性があります。筍のうちに食べることもできるし、籠や食器等の生活用具にもなります。



↑ 筍お焼き（かぐや姫のおやつ）作り



↓ 「筍お焼き（かぐや姫のおやつ）」

「山城地区ふるさと加工食品コンクール」最優秀賞

豚肉、胡椒入り豚肉、椎茸、小豆など4種類の味があります



↓ お焼き販売の様子





↑「ちくりんジャム」

↓「筍するめ」



↑「筍グラッセ」

「山城地区ふるさと加工食品コンクール」で「筍お焼き（かぐや姫のおやつ）」が、最優秀賞を頂きました。この「筍お焼き（かぐや姫のおやつ）」は、生地に筍の粉（特許製品）を入れ、具材に筍と豚肉を入れた物で、竹をイメージした細長い形で蒸し焼きにしています。

「京都のお焼きは細長い。ほそーく・ながーい、お付き合いを！」というのをキャッチフレーズにしています。

↓週一回木曜日にランチ開催（「かもめの台所」にて）



↑「筍の瓶詰め」

3種開発しました
筍は和・洋・中と、
どんな味付けにも
マッチします

かもめの生い立ちと活動



「加茂女」は、35年前に加茂町（現・木津川市）の南の端・奈良市との県境に新しく出来たニュータウン・南加茂台に引っ越ししてきた女性達が集まって、子育ての悩みを相談したり、生活の知恵を教え合うサークルとして出来たのが始まりです。

集まって活動する中で「何か地

域に役立つことをしよう」と、アルミ缶回収を行い、その売却益を社会福祉協議会に寄付しました。（現在も続いています。）その売上金報告とリサイクル啓発活動を中心にしたミニコミ誌「加茂女つうしん」を月1回3000部から4500部を発行し配布しています。現在は395号まで来ました。

↓アルミ缶回収の様子



↑毎回多くのアルミ缶が集まります

↓加茂女つうしん



↑事務所での理事会

ひろがる加茂女の活動



↑会員研修会ではゲストを呼んでの交流会や学習会もしています



↑桜の木の植樹

↓鳥取からの視察団と



加茂女は、平成 27 年 4 月に認定 NPO 法人格を取得しました。

今に続くアルミ缶回収活動を始め、その売上金報告とリサイクル啓発活動を中心にした月 1 回のミニコミ誌の発行。竹林整備活動とそれに付随する筍食品開発と製造販売や町おこしのためのイベント参加など、スタッフ一同は日々の活動に追われています。

今後の課題は、地域の竹林を本当に守るためには、私たちが竹や筍で採算が合う事業展開をして見本になり、ビジネスモデルを提案し、次世代に引き継げるような方法にチャレンジする団体に育っていくことだと思っています。

私たちは、それぞれの地域での地産地消で竹の活用が出来る事が大事だと考えています。竹が有効でお金になることが実証できればどこの地

域でも取り組んでいただけ、日本中の竹林が綺麗になると信じて挑戦しているのです。

21 世紀は自然回帰の時代であり、20 世紀のように地下資源を使うのではなく、循環可能な地上資源を使つての生活を進めていく時代だと思っています。

そのためには成長の早い竹は重要な役割を果たしてくれると信じて疑いません。

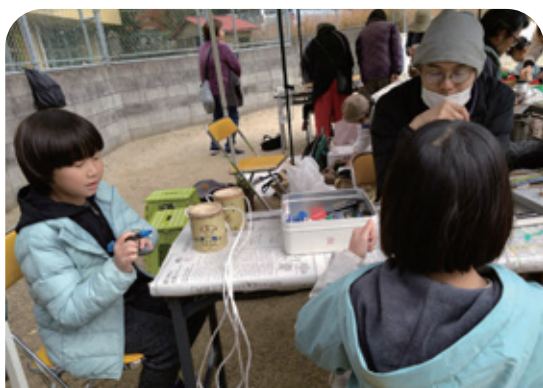
私たち加茂女は、木津川市の財産である竹林を守る事と併せ、現代風の竹と筍の利活用を考えていきたいと切に思っています。そして、継続を合言葉に今後も地域での活動を続けて行きます。

そのためにも、後に続いてくださる若い方の参加を大いに期待しています。



↑中学生たちが研修に来る

↓竹のコッポリづくり



↑竹の皮を使って鯖寿司作り講習会

加茂女についての各種情報

1. 竹林整備

木津川市の竹林風景を守るため、毎月2回（第2日曜日・第4土曜日）に放置竹林整備。間伐した竹での工芸品づくり。（バランストンボ・花器・花台・マグカップ・お椀など）

2. 竹を食べて放置竹林を無くす運動

筍を使った食品の開発・製造・販売。

※「アル・プラザ木津内のShop きのつ」、「南山城村の道の駅」「スーパー・プラント」での常設販売。

※各種イベントへの出店販売

3. 新たな取り組み

竹や筍を活用したビジネスモデルの模索。

竹のチップや竹炭の活用。竹紙制作など。

4. イベントの企画

木津川での筏下り・筍狩り・流しそうめん・婚活・チェーンソー講習会・竹林整備講習会など。

5. 農業を推進する活動

地元の若手農家と、移住して営農を目指す若者たちのマッチングセミナーなど。

6. 刊行物の発行

リサイクル活動中心の地域コミュニティ誌「かもめ通信」を毎月1回（第2火曜日）3000～4500部発行。

7. アルミ缶回収

毎月1回（第2火曜日）に軽トラ5台での回収活動。

売却益を社会福祉協議会に寄付。



【加茂女会員募集】

年会費 3,000円

【振込先】

・南都銀行 加茂支店 普通 口座番号2034661

トクテイヒエイリカツドウハウジン カモメ

・ゆうちょ銀行 記号14480 44925171

トクヒ) カモメ

他銀行からの振り込みは、店番448 普通 口座番号4492517

・京都やましろ農業協同組合 加茂支店 普通一般 口座番号0026521

トクテイヒエイリカツドウハウジン カモメ

・毎月発行する「加茂女つうしん」(地域のコミュニティ誌)郵便他、各種イベント案内を送付。

・加茂女の総会に出席し、運営についてのご意見等提言して頂けます。

【ご寄付のお願い】

「認定特定非営利活動法人 加茂女」は放置竹林をなくすため、竹林整備を行っています。私たちは、21世紀は「自然回帰の時代」だと思っています。成長の早い竹は、もっと活用していかなければいけない素材です。そのために、竹や筍の新たな活用の普及を目指し様々な取り組みを行っています。

この活動を継続していくため、各方面の有志の方々に是非ご協力、ご協賛を賜りたく存じます。本趣旨にご賛同いただけます場合は、事務所に ご一報の上、上記の振込先にご送金下さい。宜しくお願い申し上げます。

なお、ご寄付をいただきました場合は、寄付金控除の対象になります。



認定特定非営利活動法人 加茂女の挑戦

2024年3月発行

編集・発行：認定特定非営利活動法人 加茂女

〒619-1127 京都府木津川市南加茂台4-16-9

TEL&FAX：0774-66-1895

編集協力・印刷・製本：中山デザイン事務所（中山将平）

- 1989年4月 設立
- 1990年6月 アルミ缶回収作業開始
- 2005年 放置竹林の整備活動開始
- 2008年 竹の工芸品にチャレンジ
- 2010年4月 竹や筍の食品加工業にチャレンジ
- 2010年10月 NPO法人格取得
- 2010年11月 「筍お焼き」が「やましろの食を味わうふるさと加工食品コンクール」最優秀賞を受賞
- 2014年 事務所兼厨房を取得
- 2015年2月 カフェ・ランチ開始
- 2015年4月 認定NPO法人となる
- 2015年12月 “国連生物多様性の10年委員会”より「たべよう部門」で「生物多様性アクション大賞 2015」大賞を受賞
- 2016年夏 開放窯での竹炭づくりにチャレンジ
- 2016年10月 第40回全国育樹祭開催時に“森の恵みを活かす部門”において京都府知事の感謝状を戴きました
- 2016年10月 京都府男女共同参画課より頑張る女性に贈られる「あけぼの賞」を受賞
- 2017年春 竹のチップ化やペレット化などにチャレンジ
- 2017年11月 「明日の日本を創る協会」から「あしたのまち・くらしづくり活動賞・内閣総理大臣賞」を受賞
- 2019年9月 竹紙制作へのチャレンジを開始
- 2023年3月 関西テレビ「よーいどん」で加茂女のお焼き(かぐや姫のおやつ)が紹介される
- 2023年11月 カタログ販売のニッセンと取引始まる。